

あしなが発1343号

2017年2月吉日

2016年中(暦年)のご寄付者のみなさまへ

あしなが育英会

会長 玉井 義臣

「受領証明書」ご送付と事業報告ならびにお願い

TICAD VI (アフリカ開発会議) でアフリカの元首にあしながと玉井を紹介
あしなが学生募金が第93回からアフリカ遺児支援、安倍総理も応援
小中学生教育支援と進学仕度金制度開始で日本の遺児にも力を傾注

昨年2016年暮れの米国の大統領選挙で、まさかのトランプ候補勝利で、世界の秩序はかわり、米国ファーストの激震が静かに世界を駆け抜けるのでしょうか。日本は混迷の時代にと、徐々にしかし確実にくる人口減少と少子高齢化時代の経済の落ち込みに、何としても生き残らねばなりません。遺児たちは勇気をもって海外に飛び出し、国際化社会で活躍してください。本年も「100年構想」のアフリカ遺児留学に日本の遺児救済と同じ位力を注ぎます。彼らが諸外国で学びを高め、アフリカに帰り、貧困を削減し、人口増加のエネルギーによりたゆまず続く経済の成長で、アフリカは世界の消費大国となると同時に、生産力の増強で最後に栄える国家群になることを信じ「100年構想」を自信をもって共に進める所存です。

日本もアフリカの時代創造を共に進め「共生」しましょう。ですから、私たちは日本が乗り遅れないようにアフリカ政策を進めるのです。世界のもう一つの常識です。また、ITやAI(人口知能)の進歩で、日本の職種は向こう20年間で半分になるという調査があります。20年も経たずして仕事そのものの半分がITやAIによってなくなってしまうという驚くべき予想です。これにどう対応するか、極めて難しい時代になります。

ただ、次頁の囲み記事はその一つですが、「あしなが運動」にはこれまで様々な試練がありました。しかし、それを乗り越えられたのは偏にみなさまの遺児を想う慈愛のおかげです。今後立ちはだかるどんな困難も、みなさまと共にあれば大丈夫と信じております。

2016年の「受領証明書」をお届けいたします

さて、2016年1月1日から12月31日までのあなたさまからのご寄付の「受領証明書」をお送りいたします。多くの方からのご寄付に心から厚く御礼申し上げます。ご寄付の合計額は47億5162万1817円となり、前期比118.3%となりました。日本の経済状況が厳しい中にもかかわらず、改めてみなさまのご支援に深く感謝申し上げます。大切にに使わせていただきます。

2016年中にみなさまから寄せられましたご寄付額（2016年1月～12月）は次のとおりです。

・あしながさん奨学金	13億5136万2764円	(昨年比90.5%)
・使途を限定しない一般寄付	11億6146万560円	(昨年比97.7%)
・虹のかけはしさん	1億4877万7641円	(昨年比135.3%)
・海外遺児支援	15億521万5164円	(昨年比327.4%)
・その他	705万7439円	(昨年比51.8%)
・熊本地震	6964万282円	
・東日本大地震津波遺児支援関連	5億810万7967円	(昨年比74.7%)
合計	47億5162万1817円	(昨年比118.3%)

*** 堀田談話を生かして共生と連帯で世界の遺児を幸せに ***

あしなが運動50年余の間、最もいまわしい事件は約25年前に、私玉井が交通遺児育英会の専務理事の職を辞め、身一つで任意団体に移った事件である。これは官僚などの乗っ取り劇と、長く正確なところが世間に分からぬまま噂は途切れることなく、この間私はほぼ20年間位、時には精神がおかしくなるほど悩まされた。

それが過日、吉川英治文化賞（第50回）授与式の席上で堀田力審査委員長（さわやか福祉財団会長、元検事）が「これは私の責任で申しますけれども、玉井さんは長い活動の中で、すごいお金を集めたので、その活動を政府に乗っ取られた過去（交通遺児育英会時代）があります。その後ゼロの時代からあしなが育英会を立ち上げ、もう一度頑張ったこの活動をすべての遺児、そしてアフリカにまで広げています。素晴らしい活動であります。この一連の乗っ取りに対して我々も応援したいという思いもあり、今回の受賞に結実したのだと思います」と私玉井をご来場の皆さまにご紹介してくださった。繰り返しになるが、これは50余年のあしなが運動の歴史の中で最も大きい事件だった。（中略）

これからも国内の遺児の問題を着実に進めると共に、アフリカの子どもたちも婦人も極貧なので、彼らの貧困の削減と、新しい社会づくりを世界の人々と一緒に進めたい。ご支援を続けていただいている皆様には、アフリカ遺児の問題も国内遺児の問題も大局的には本質は変わらぬことをご理解いただきたく、変わらぬご支援をよろしく願います。

《機関紙『NEW あしながファミリー』第145号（2016年7月号）「共生」から抜粋》

安倍総理の応援で「あしなが100年構想」運動の歴史が20～30年加速すると確信

(1) TICAD VIの日本政府主催のレセプションで玉井会長スピーチ

15年に亘るアフリカの遺児支援活動が世界に評価されました

安倍総理には、2016年8月26日のケニアのナイロビTICAD VIの開会前夜、日本政府主催のレセプションで出席の各国元首への冒頭挨拶で、私玉井とアフリカの15年間の運動をご紹介いただきました。私は「アフリカが世界を牽引していくその日まで頑張っていく」と世界中の方々に向けて支援を訴え

ました。あしながキッズは各国元首を前に躍動感あふれるダンスを披露して大きな拍手喝采を浴びました。ダンス終了後には、私のもとへ惜しめない賞賛とこれからの協力の申し出が相次ぎました。この素晴らしいダンサーに心動かされて、アフリカの遺児を世界の大学へ飛び立たせる ASHINAGA への関心が大いに高まったことを確信した次第です。

(2) あしなが学生募金で初めて海外遺児に支援を拡大、安倍総理が激励の募金

街頭の優しさをアフリカへ

16年10月に行われた第93回あしなが学生募金は、国内の遺児に加え、初めてアフリカ遺児に支援を拡大しました。日本の遺児の奨学金とアフリカ100年構想資金として、二分の一ずつがあしなが育英会に寄付されました。

街頭で理解を得られるのか不安も大きい中、日本人遺児学生、アフリカ遺児留学生、ボランティアの中高生、大学生、そして世界各国からの留学生が全国各地で懸命に支援を呼びかけてくれました。募金初日のオープニングセレモニーには安倍総理が駆けつけてくださり、募金を呼びかける学生ら一人ひとりに「頑張ってください」と激励の言葉をかけてくださいました。在任中の総理大臣が街頭でのあしなが学生募金活動にご協力いただいたのは史上初めてのことです。

コラボレーションコンサート「世界がわが家」ウガンダで凱旋公演！ 沸き立つ感動！

16年8月23日、ウガンダの野外劇場に詰めかけた2,000人の観客は、大地を揺るがす熱狂的な歓声をあげ、喜びに沸き立ちました。まさに感動の凱旋公演でした。

あしながウガンダ寺子屋キッズ、ヴァッサー大学コーラス部、東北津波遺児たちの太鼓隊、国も生活環境も異なる若者たちのコラボコンサート「世界がわが家」は、仙台、東京、ニューヨーク、ワシントンDCの各都市での公演を経て、ついにウガンダ寺子屋キッズの故郷ウガンダ・カンパラで凱旋公演を果たしました。才能ある若者が集い、異なる文化を共有することで新たな可能性が生まれていく、あしなが育英会の教育プログラムの理想の体現に会場中が大いに沸き立ちました。

第2回「賢人達人総会」が初めて日本を会場に開催

来る17年2月28日に「賢人達人総会」が日本で初めて開催されます。

私は「100年構想」実現のために、国際的な影響力を持つ方々をアドバイザーとして「賢人達人会」という諮問機関を作りました。「100年構想」の趣旨に賛同した世界35か国82人の方々に就任していただいています。その中から今回の総会には33人の賢人達人が出席いたします。前回同様に白熱した議論が飛び交う総会となるに違いありません。

国際化社会で活躍する人づくりのために、国内遺児支援にも積極的に取り組みます

(1) 「つどい」に1,800人が参加。連帯・自立・感謝を学ぶ

「志高くWORK HARD」。このテーマを掲げ、16年夏全国各地で熱い「つどい」が開催されました。今年も世界各国の学生が参加。日本の遺児たちは、外国人と接し、交流プログラムを通して「将来の夢や学ぶ意欲を世界に広げる」ことの大切さや「新しい事にチャレンジする」姿勢を身につけることを目標にすることで「学生時代にいかにWORK HARDしていくのか」を考えた「つどい」でした。

(2) 遺児の心のケアと教育支援に取り組むレインボーハウス

日野市、神戸市、仙台市、石巻市、陸前高田市と、あしなが育英会は5か所のレインボーハウスを運営しています。レインボーハウスでは3つのことを大切にしています。①「ひとりじゃないよ」(孤独感から仲間意識へ)、②「家族や死別体験」に丁寧に触れる、③「がんばろう」(自助自立へのきっかけを)。ただ、遺児にとって心のケアだけでは十分とは言えず、自信を持たせ、自分自身で努力していくことが大切だと考え、教育的支援にも取り組んでいます。

なかでも、海外研修に力を注いでいます。いずれも短期ですが、現地のご支援によりオーストラリア、ニューヨーク、サンディエゴでホームステイや現地のサマーキャンプに参加しています。海外体験をした遺児たちは、学校生活にも前向きに取り組むようになり、夢や希望に向かって頑張っています。

(3) 小中学生に向け初の本格的な教育支援となる「ジュニアイングリッシュキャンプ」

格差拡大による遺児の貧困やドロップアウトを防ぐため、これまでの高校・大学生の支援だけではなく、小中学生への教育支援へと枠組みを広げることにしました。その一環として、国外での英会話学習と異文化を体験できる「あしながイングリッシュキャンプ」(AJEC)をスタートしました。16年3月にフィリピンで東北震災遺児を対象に始めましたが、遺児の勉強意欲や前向きな姿勢を高める効果が大きく、17年3月からはすべての遺児を対象にいたします。あしなが運動50年目の新機軸です。

(4) 進学仕度一時金制度に申し込み殺到

遺児が高校から大学に進学する最もお金がかかるときに、経済的理由で進学を断念するケースが少なくありません。16年、高校奨学生を対象に「進学仕度一時金(40万円)制度」を新設しました。100人を採用する計画でしたが370人から申請がありました。不採用の判定が困難だったことから補正予算を充当し申請者全員に送金しました。

(5) 返済不要の災害緊急支援制度

東日本大震災・津波や熊本地震など甚大な被害をもたらした大災害では、遺児たちに使途自由・返済不要の「特別一時金」を給付いたしました。

他にも縷々ございますが、紙幅の都合により割愛させていただきますこととお許しください。詳しくは同封いたしました「あしながニュース」をご一読くださいませ。

寒さ厳しき折、みなさまにはくれぐれもご健勝であられますこととお祈り申し上げます。本年も遺児支援のため何卒よろしく願いいたします。